資料２

# グローバル教育および郷土教育の取組状況について

## １　「グローバル三重教育プラン」の取組状況と今後の対応

グローバル教育は、「グローバル三重教育プラン」（平成26年度から平成28年度まで）に基づき、以下の３つの力をバランスよく身につけた人材の育成をめざした取組を進めています。

○　自ら考え判断し主体的に行動する「主体性」
○　他者と共に成長しながら新しい社会を創造する「共育力」
○　外国語で積極的にコミュニケーションを図る「語学力」

### （１）「主体性」の育成に係る取組

**■高校生の留学の促進**

・　県内の高校生を対象として、海外留学にかかる経費の一部を支援しました（長期：上限30万円　短期：上限10万円）。派遣実績は、長期３人、短期18人でした。
・　留学者数を増やすために、高校生や保護者に留学に関する情報提供等を行う「留学フェア」を開催し、48人の参加がありました。
・　留学への機運を高めるため、平成28年度には海外研修旅行を主催し、海外における産業視察や異文化交流の機会を新設します。

**■スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）**

・　文部科学省から指定（平成26年度から平成30年度まで）を受けている四日市高等学校で、海外フィールドワーク（参加者数30人）、課題研究論文の作成、論文討論会、地域への提言フォーラム「四高ＳＧＨスーパープレゼンテーション」等の取組を行いました。
・　四日市高等学校におけるＳＧＨの取組が３年目を迎えることから、これまでの成果と課題を検証するとともに、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、「新たな価値を創造する国際人育成プログラム」の充実に努めます。

**■課題解決力育成研修**

・　子どもたちの課題解決力を育むための授業づくりに向けた教員研修を、市町教育研究所等と連携したブロック別研修を含め､17講座実施し、767人が受講しました。
・　今後は、子どもたちの主体的・協働的な学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）を促す指導方法とも結びつけ、課題解決力の育成を図っていきます。

### （２）「共育力」の育成に係る取組

**■「みえ未来人育成塾」**

・　将来の三重を支える「志」を育成し、学校の枠を越えた若者のネットワー

クを構築するため、高校生および大学生等を対象に、国際協力、環境、政治等についての対話型講義、グループディスカッション、発表を行いました。合計２回開催し、参加者数はのべ75人（高校生47人、大学生22人、留学生６人）でした。

・　今後は、生徒の「教育力」を育成するため「みえ未来人育成塾」における取組の成果を生かせるよう、他の事業にも広げていきます。

**■小学校における英語コミュニケーション力向上事業**

・　３市町(鈴鹿市、津市、玉城町)のモデル校において、フォニックス（英語の音と綴りの関係を表すルールを学ぶ学習法）やレゴブロック等を活用した英語指導モデルの開発に向けた実践研究を行い、取組の充実を図るため、教職員等を対象にした連絡協議会を４回実施しました。

・　モデル校における取組の成果等を県内に積極的に発信していきます。

**■中学生からの提案・発信**

・　中学生が、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ち、仲間と共に身のまわりの課題を解決する態度を育むとともに、自分の考えや意見を積極的に社会に発信する力を育むことを目的に実施し、27校（13市町、私立・国立を含む）から35点の応募がありました。選考委員会による審査のうえ、優れた提案の発表会と表彰式を行いました。

・　より多くの学校からの応募に向けた周知方法や、子どもたちが主体的に参加する審査会の持ち方、子どもふるさとサミットの成果と関連した取組を工夫していきます。

**■コミュニケーション力育成研修**

・　子どもたちのコミュニケーション力を育むための授業づくりに向けた教員研修を、市町教育研究所等と連携したブロック別研修を含め、15講座実施し、665人が受講しました。

・　事後アンケートの「活用度」に関する肯定的回答は97.3%と高い結果でした。今後は、子どもたちの主体的・協働的な学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）を促す指導方法とも結びつけ、コミュニケーション力の育成を図っていきます。

**（３）「語学力」の育成に係る取組**

**■小学校における英語コミュニケーション力向上事業**

・　「聞く」、「話す」を中心とした英語コミュニケーション能力の素地を養うため、県オリジナルの小学生向け英語音声教材「ＪｏｙＪｏｙ　ＭＩＥ ｎｇｌｉｓｈ（ｼﾞｮｲ ｼﾞｮｲ ﾐｰ ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ）」の計画的な活用の推進に向け、モデル校における活用事例の収集等を行い、各種会議や県指導主事による学校訪問等の機会を利用し、具体的な活用方法の普及に努めたところ、活用が進みました。

・　一方、本教材の活用状況調査では、活用していない理由として「取り組む時間がない」との回答が多かったことから、短時間学習（モジュール学習）で活用可能であることを周知し、活用を促進していきます。

■郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～

・　中学生が「郷土三重」への理解を深め、豊かな自然、歴史、文化等の魅力を英語で積極的に発信できる力を育むことを目的として実施し、58校（22市町、私立含む）から853点の応募がありました。選考委員会による審査のうえ、優れた作品の発表会と表彰式を行いました。伊勢志摩サミットの開催に合わせ、「伊勢志摩特別賞」を設けたところ、積極的な応募がありました。

・　より多くの学校からの応募に向けた周知方法や、子どもたちが主体的に参加する審査会の持ち方を工夫していきます。

■英語キャンプ

・　鈴鹿青少年センターにおいて、英語のみを使用する環境の創出による英語コミュニケーション能力の向上を目的に実施し、109人（小学生29人、中学生38人、高校生42人）の参加がありました。

・　習熟度別のグループによる活動や高校生の英語能力に応じた難易度の引き上げ等、内容の充実を図ります。

■「英語インセンティブ拡大プログラム」

・　県内開催された国際的なゴルフ大会に高校生がアシスタントとして参加し、外国人等のトッププロとの交流をとおして、英語学習の動機付けを高めました。

・　平成28年８月に本県で開催される「第10回国際地学オリンピック日本大会」における海外高校生との交流会に向けた生徒実行委員会を、三重大学の学生とともに英語で行いました。

・　これまでの取組を検証するとともに、英語によりコミュニケーションを図り行動する力を育成していきます。

■英語教育推進研修

・　英語教育に携わる者の英語指導力向上を図るため、各小学校１人の教員および全ての中学校・県立学校の英語教員を対象として、「英語教育推進リーダー中央研修」(文部科学省)の内容を普及する研修を30講座実施し、のべ820人が受講しました。

・　小学校では、本研修受講者が英語教育中核教員として校内研修を実施しました。今後は、校内研修がより充実したものとなるよう、市町教育委員会とも連携し、英語教育中核教員の活動を支援していきます。

・　中学校・高等学校では、英語で実施する授業が推進されるよう、本研修での学びがより授業改善につながるものとしていきます。

■外国語における学習到達目標（ＣＡＮ-ＤＯリスト）

・　各中学校・高等学校における「外国語における学習到達目標（ＣＡＮ-ＤＯリスト）」の作成を支援し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の４領域を総合的に育成する英語教育を推進しました。

・　学校訪問や授業改善のための各事業を通じ、各校におけるＣＡＮ-ＤＯリストの作成、公表、達成状況の把握を進め、英語教育の充実を図ります。

## ２　郷土教育に関する取組状況と今後の対応

### （１）小中学校における「郷土への思い」を育む取組

**■教材の作成・活用**

・　小学校社会科（主として３、４年生）で活用する地域教材を扱った副読本を23市町が作成し、地域の産業や働く人々の姿、地域の発展に尽くした人々の業績についての学習などが行われています。

・　教材「三重の文化」、「ふるさと三重かるた」の活用を推進するとともに、三重に関わる教材である「ふるさと通信」に郷土の誇るべき先人の言葉等を取り上げるなど、教材の開発とその活用実践を推進します。

**■農林水産業体験から学ぶ取組**

・　四日市市や度会町では、伊勢茶の生産農家や製茶施設での見学・体験のほか、生産したお茶を販売する取組を行っています。

・　鳥羽市や志摩市では、アサリ（ケアシェルと呼ばれるかき殻による浄化装置を活用）や真珠・かき・あおのりの養殖、伊勢えびの網漁についての体験を基に学習しています。

**■四日市公害についての学習**

四日市市では、「四日市公害と環境未来館」での社会見学を実施し、なぜ四日市公害が起きたのか、その後どういった経緯で青空を取りもどし、環境先進都市とよばれるようになったのか等について学習しています。

**■地域の偉人についての研究**

・　歴史学習（小学校６年、中学校１、２年）とあわせて、地元とゆかりのある偉人（観阿弥、河村瑞賢、本居宣長、大黒屋光太夫、松尾芭蕉、九鬼義隆、松浦武四郎など）を取り上げ、図書館や資料館で詳しく調べたり、調べたことをみんなの前で発表したりしています。

・　伊賀市では、俳句について学習し、芭蕉祭（10月）にあわせて、俳句づくりやそれにちなんだ劇・クイズなどを行い、俳聖・松尾芭蕉の業績や俳句の素晴らしさについて学んでいます。

**■地域の伝統工芸について学ぶ取組**

地域の伝統工芸品（四日市萬古焼、鈴鹿墨、伊勢型紙、伊賀くみひも、伊賀焼、伊勢根付など）を取り上げ、その美しさや卓越性、職人の願いや誇りについて考える取組を行っています。

**■地域の伝統文化から学ぶ取組**

地域に伝わる年中行事（竈方祭り、麻加江かんこ踊り、松明調進行事など）の起源について、話を聞いたり、調べたり、考えたりすることを通じて、日本や地域の伝統文化の特色を学ぶ取組を行っています。

**■その他**

・　「ご当地検定」の取組が７市町（四日市市、亀山市、津市、南伊勢町、伊勢市、伊賀市、熊野市）で実施されています。（市民対象）

・　多気町では、郷土資料館がかるたの句を小中学生等に募集し、「たき

カルタ」を作成しています。

### （２）高等学校における「郷土への思い」や「地域の担い手」を育てる取組

**■地域ビジネス創出プロジェクト（ＳＢＰ）**

南伊勢高等学校では、地域に残りたい若者が地域に残れる仕組みをビジネスとして創ることをめざして地域ビジネス創出プロジェクト（ＳＢＰ）を立ち上げ、南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」にちなんだたい焼き「たいみー焼き」の商品化をめざすとともに、地元商品を詰め合わせたセレクトギフトの販売等に取り組んでいます。

**■地域の特産品を使った商品開発**

・　あけぼの学園高等学校では、企業と連携して地元産の菜種油を用いたシャンプーとトリートメントを開発し、菜種油の販路拡大に取り組んでいます。

・　明野高等学校では、地元特産物のひじきを使った商品開発等に取り組んでいます。

**■地元商店街との連携**

津商業高等学校では、地元商店街と連携して開発した商品の販売、商店の経営コンセプトにあったＷｅｂページを設計してその効果を分析するなど実践的な電子商取引の研究に取り組んでいます。

**■地元自治体等との連携**

・　相可高等学校では、多気町と連携して高校生レストランを運営し、地元食材を活用し地産地消に取り組んでいます。

・　紀南高等学校では、地元警察との協働による交通安全啓発活動などの取組を行っています。

**■地域の課題発見、課題解決**

・　昴学園高等学校では、慶応義塾大学等と連携し、生徒が町づくりにおける課題発見解決思考と当事者意識を持つことをめざして「まちばな（実在するまちづくりリーダーの疑似体験プログラム）」に取り組んでいます。

・　尾鷲高等学校では、三重大学と連携し、フィールドワークやグループディスカッションを通じて地域の現状や地域資源についての理解を深め、そこから見えてきた課題の解決策や活性化案を発表する人材育成事業「尾鷲高校まちいく」に取り組んでいます。

**■観光振興の取組への参画**

・　四日市商業高等学校では、菰野町に関する観光客を対象としたマーケティング調査と分析、商品開発等の企画提案に取り組んでいます。

・　明野高等学校では、外宮参道ボランティアに参加して、「伊勢」を観光客に案内しています。

**■高校生美容室**

あけぼの学園高等学校では、校内に開設した高校生美容室での活動を

通じて、コミュニケーション能力の向上や接客のノウハウの習得に取り組んでいます。

**■食を通して学ぶ取組**

・　桑名西高等学校では、地域に伝わる行事食や郷土教育を取り上げ、食の持つ文化的、歴史的な側面について理解を深める取組を行います。

・　白子高等学校では、郷土料理の研究により、食の地域性を理解する取組を行います。

**■地域の自然、環境等について学ぶ取組**

飯南高等学校では、郷土の自然について現地を見学し、郷土についての理解を深めるとともに、自然環境に恵まれた台高山系の保全についての知識と技術を身につける取組を行います。

**■地場産業を通して学ぶ取組**

飯南高等学校では、郷土の地場産業（伊勢茶、松阪牛、林業）について、体験や見学を通じて、知識や技術を学び、郷土の産業の良さを知り、理解を深める取組を行っています。

**■郷土の伝統文化を通して学ぶ取組**

・　伊勢まなび高等学校では、伊勢志摩地方の伝統文化、三重県の地誌、三重県の政治・経済、現状から三重の将来を考える取組を行っています。

・　鳥羽高等学校では、郷土に伝わる民俗芸能を学ぶことにより、地域文化に対する意識の向上をはかり、将来、地域のリーダーとなる生徒を育てる取組を行います。

・　紀南高等学校では、御浜町周辺の歴史・文化・産業・伝統工芸などの学習を通じて、地元地域への理解を深め、伝統工芸の継承と地域に貢献できる人材の育成をめざす取組を行います。